MIRAI
［人と防災未来センターニュース］

［人と防災未来センターニュース］
発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
DRI
Vol. 16

Contents

特集 減災月間行事特集
ひょうご安全の日／災害メモリアルKobe 1
1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・記念講演会を開催 4
パキスタン・イスラム共和国地震災害調査報告 6
資料室からのお知らせ 7
聴覚障害者向けにLED字幕表示運用開始 8

特　集　減災月間行事特集

◆「ひょうご安全の日　1.17のつどい」開催◆

震災から11年となる平成18年1月17日、当センターで「ひょうご安全の日　1.17のつどい」が開催されました。

井戸敏三知事は大震災の経験と教訓をこの兵庫県から発信し、安全・安心社会づくりの実現について述べられ、県内の新成人が「県民のことば」、県立舞子高校の生徒が「誓いのことば」をそれぞれ述べました。また、ひょうご安全の日推進県民会議企画委員長である、河田恵昭当センター長が「ひょうご安全の日宣言」を読み上げられました。

『1.17ひょうご安全の日宣言』

震災から11年が経った
私たちは多くの人たちに震災の教訓を知ってもらいたいと願ってきた
その間にも、各地で地震災害が起こった
阪神・淡路大震災の教訓が被災地の被害の軽減に役立ってきた

阪神・淡路大震災がきっかけとなって、「減災」の考え方が理解されてきた
底知れない自然の力に対しては被害をゼロにすることはむつかしい
地震だけでなく、風水害も多発・激化するようになってきた
そこでも、阪神・淡路大震災の教訓が活かされてきた

1年前、国連防災世界会議で世界中から多くの人たちが神戸に集った
兵庫行動枠組のもと、災害の被害を減らす努力を続けることを誓い、
防災・減災の大切さを伝えた

人々は「大災害はわが街では起こらない」といまだに考えている
新潟県中越地震やスマトラ島沖大地震が起こったときにも、このことを改めて痛感した
災害を「ひとごと」と考えてはいけない
災害に対し、私たちは備えなければならない
これは阪神・淡路大震災の教訓である

愛する家族、友人、知人そしてわが街に災害の危険が迫っている
どうすればいいのだろう

伝えよう、もっと伝えよう阪神・淡路大震災の教訓を
活かそう、もっと活かそう阪神・淡路大震災の教訓を

震災の教訓はかけがえのない犠牲を払って得た私たちの貴重な財産なのだから

2006年1月17日
ひょうご安全の日推進県民会議

◆ 災害メモリアルKobe―次世代に教訓を語り継ぐ会―開催 ◆

「しあわせ運べるように」合唱

１月15日、人と防災未来センターにて「次世代の育成」「世代間交流による語り継ぎ」「地域間交流」を行うことによって、「市民の防災力を高める」ことを目的にした「災害メモリアルKobe」を開催しました。

第１回目となる今回は、平成16年に豪雨災害と新潟中越地震と連続して大きな災害に見舞われた新潟県の子ども達と、台風23号による水害を受けた豊岡市の子ども達から被災体験などについての作文を募集し、実行委員会で選考された子ども達（新潟県25名、豊岡市13名）を神戸に招待しました。また、地元の神戸市立なぎさ小学校、渚中学校の児童、生徒の皆さんもこの会に出席しました。

午前中は「未来へ語ろう！わたしたちの体験」をテーマに新潟県から13名、豊岡市からも13名の子ども達が被害の状況・怖さや人とのつながり・出会い、未来へのメッセージをこめた作文を発表しました。

午後からは「聞いてみよう！おとなたちに」をテーマに阪神・淡路大震災のキーパーソンである貝原俊民前兵庫県知事のお話しを聞くとともに、貝原前知事及び室崎益輝消防研究所理事長が「ライフラインの完全復旧はどれくらい時間がかかったのか？」「地震が起きたときに、始めに頭に浮かんだことは何か？」といった子どもたちの疑問や質問に答えました。

次ぎに「一緒に考えよう！絆の大切さ」をテーマに新潟、豊岡、神戸の子ども達が一緒になって、神戸市立渚中学校の心のケア担当教員による防災学習を受け、最後に会場の参加者全員で阪神・淡路大震災時に生まれた歌「しあわせ運べるように」を合唱しました。

この会を通して新潟・豊岡・神戸それぞれの地域の人たちの経験をみんなで共有することができました。

◆ 人と防災未来センター友の会「非常食を食べよう!炊き出し大会」開催 ◆

人と防災未来センター友の会では１月15日に「非常食を食べよう！炊き出し大会」を開催しました。毎年友の会で１月17日前後に開催していますが、今回はセンター運営ボランティアの方も一緒になって炊き出しを行いました。メニューは豚汁に非常食のアルファ化米です。当日は天候に恵まれ限定500食がすぐに完食されました。

◆「世界災害語り継ぎネットワーク（TeLL-Net）」設立 ◆

「世界災害語り継ぎネットワーク」の設立総会及び設立記念フォーラムが、１月19日及び20日の両日で開催されました。災害の体験を広く世代を越えて語り継いでいくことはとても大切なことです。被災者が自ら語る体験談には誰もが心を揺さぶられ、将来の災害に備えるために具体的な行動を起こさなくてはという気持ちに駆り立てられます。

その反面で、こうした活動を継続していくには大変な努力が必要です。なぜなら、被災者も社会も災害の爪痕や教訓をあっという間に忘れてしまうからです。個々の被災地における「災害を語り継ぐ」活動については、残念ながら限界があります。

そこで、世界各地で博物館・資料館を運営したり、防災教育の一環として災害の語り継ぎに取り組んでいる関係者が、神戸に集まり、同じ目標に向かって力を合わせ、お互いに励まし学び合いながら活動を進めていくことを確認しました。

＜発足総会の開催＞

１月19日（木）午前９時から人と防災未来センターの会議室で、今後の活動等について議論するとともに、現在の取り組みについて相互に情報交換を行いました。

ネットワークとして、今後はホームページの立ち上げ・運営、情報交換や新たに語り継ぎ活動に取り組もうとする者への支援などを行うこととなりました。

＜設立記念フォーラム＞

１月20日（金）午前９時30分から神戸市中央区 ＪＩＣＡ兵庫国際センターにおいて、国際防災・人道支援協議会(DRA)及び兵庫県の主催により、「世界災害語り継ぎネットワーク設立記念フォーラム」が開催されました。

はじめに、東京女子大学の広瀬弘忠教授により「災害に出会うとき」と題して基調講演をいただきました。災害を語り継ぐことについて、「災害を語り継ぐことは、語り手にとって自らのつらい体験を他人に理解してもらうきっかけになり、聞き手にとっては防災についての行動を起こす動機付けになる。」とその意義を強調されました。

続いて、当センター　小林郁雄上級研究員をコーディネーターに内外の取り組みについて事例発表が行われ、イラン国立国際地震工学・地震学研究所のパルシザデ防災教育部長からは、イラン国内に防災文化を育てるために学校における防災教育に取り組んでいることが紹介されました。

続いて、最近の日本国内の事例として新潟県の大口危機管理監からは、新潟中越地震の復興の取り組みの中で、市民による地域の再生計画作りなどが進められている現状のお話がありました。

2004年12月のスマトラ沖地震・津波の被災地からは２件の報告がありました。スリランカ・コロンボ国立博物館のウィクラムシンハ副館長からは、津波に巻き込まれた列車を保存展示するための「津波博物館」の構想などを紹介。

また、インドネシア・シムル島のダーミリ市長からは、「地面が揺れたら高いところに逃げよう」という内容の伝承歌によって被害が押さえられたことが紹介され、妻のアフリダワティさんがその歌を披露して下さいました。

地元神戸からは、震災から生まれて親しまれている曲「しあわせ運べるように」を作詞作曲した神戸市立明神小学校の臼井教諭から歌が世界中に広がっていることなどが紹介され、会場の全員で合唱しました。

最後に、テルネット設立の事務局長も務めてきた小林上級研究員から、ネットワークの意義や活動内容が盛り込まれた「テルネット宣言」が発表され、ＪＩＣＡ国際緊急援助隊の浅野事務局長からは、「災害の悲惨な面だけでなく、その後に生まれた希望や慈しみについても語り継ぐことで、将来の災害による被害を少なくすることができる。」とネットワークへの期待が表明されました。

◆ 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・記念講演会を開催 ◆

全国の学校や地域で防災教育に取り組んでいる子どもや学生を表彰する 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」の表彰式・発表会が１月８日、神戸市中央区の兵庫県公館で行われました。

同賞は、阪神・淡路大震災 10 年を機に、平成 16 年度から「子どもぼうさい甲子園」を始めた毎日新聞社と、今年度新たに「1.17 防災未来賞」を創設した兵庫県及び人と防災未来センターが共催。

小学生、中学生、高校生、大学生の４部門に 26 都道府県の計 147 校・グループの応募があり、その中から、「ぼうさい大賞」が各部門から１点計３点（うち１点はグランプリ）、「優秀賞」が計 11 点、その他奨励賞が１点選ばれました。

「ぼうさい大賞・グランプリ」に選ばれたのは、地元兵庫県の県立淡路高校で、地域に密着した防災訓練、放送部の語り部活動、保健所での読み聞かせ防災授業、英語研究部の震災関連の英語ビデオの制作、さらには震災ボランティア劇の上映などを行っていることが高く評価されました。

発表会では、受賞した子どもたちが地域と一体になった、また、楽しみながら防災を学ぶ多彩な取り組みを披露しました。

また、第２部では、河田惠昭人と防災未来センター長の「次なる災害への備え～減災について考える」と題した記念講演が行われ、防災・減災の主役は市民一人ひとりであることや、長期的、継続的な取り組みの必要性を訴えました。

受賞校・グループは、以下の通り。

発表会の様子

■ぼうさい大賞■

＜小学生部門＞

千葉県・我孫子市立湖北小学校（６年生が、昨年度からゲームを利用した防災学習に取り組む。自分たちで作ったクイズを下級生に伝えたり、月１回の防災新聞も発行。）

＜中学生部門＞

愛媛県・愛南町立中浦中学校（南海地震に備え、校区の危険箇所や避難場所をチェック。生徒らが近くの保育所園児や小学生に避難の仕方を教えている。）

＜高校生部門・グランプリ＞

兵庫県・県立淡路高校

＜大学生部門＞

該当なし

表彰式の様子

■優秀賞■

＜小学生部門＞

新潟県・川口町立田麦山小学校▽愛知県・豊橋市立津田小学校▽兵庫県・アトリエ太陽の子▽高知県・高知市立大津小学校

＜中学生部門＞

愛知県・田原市立野田中学校▽兵庫県・加古川市立山手中学校▽高知県・高知市立愛宕中学校▽福岡県・福岡市立玄界中学校少年少女消防クラブ

＜高校生部門＞

兵庫県・県立舞子高校環境防災科▽和歌山県・県立田辺工業高校

＜大学生部門＞

大阪府・神戸カエルキャラバン 2005

河田センター長の記念講演

■奨励賞■

＜高校生部門＞

千葉県・県立市川工業高校建築科耐震研究班

展示会での情報発信

人と防災未来センターでは、行政、企業、各種団体、一般住民など多くの人に当センターの活動内容を知っていただくため、さまざまな展示会・イベント等の機会に出展をして、普及啓発に努めています。本年度に出展した主要な展示会は下表のとおりです。

今後とも各種展示会・イベントに積極的に参画していきます。

開催日	名　　称	会　　場	開催場所
8月4～5日	国際フロンティア産業メッセ2005	神戸国際展示場	神戸市
9月9日	愛知万博「兵庫県の日」	長久手会場	愛知郡長久手町
9月30日～10月1日	震災対策技術展2006（長岡）	長岡産業交流会館	新潟県長岡市
10月19～21日	危機管理産業展2005	東京ビッグサイト	東京都江東区
10月29～30日	ふれあいフェスティバル2005	三木総合防災公園	三木市
1月17～18日	震災対策技術展2006（神戸）	神戸国際展示場	神戸市
2月2～3日	震災対策技術展2006（横浜）	パシフィコ横浜	横浜市

国際フロンティア産業メッセにて

野外ステージでの展示（愛知万博「兵庫県の日」

2．出展内容

①当センターの活動紹介

センターの多角的な活動を紹介するため、「1・17 シアター」のダイジェスト映像やプロモーション映像による施設紹介、パネル展示、ちらし・パンフレット・イベントニュース・調査レポートなど当センターが発行する各種資料を配付しました。

人防センターブース（震災対策技術展（神戸））

②センターがおすすめする防災グッズ「非常持ち出し品」

昨年９月に開催した企画展「センターがおすすめする防災グッズ『非常持ち出し品』編」でご紹介した防災用品を各会場に持ち込み、非常持ち出し品リストと併せて紹介をしました。

防災用品は具体的で身近なものであることから、当ブースの中では人気コーナーです。

多くの方から関心を寄せていただきましたが、特に地域で防災活動に取り組んでおられる方からは、「とても便利なリストですね。知り合いに配ります。」などと評価をいただきました。

震災対策技術展（横浜）

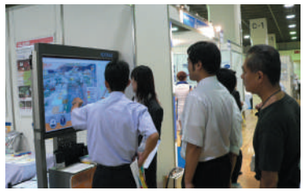
③阪神・淡路大震災“わたしたちの復興”プロジェクト

MIRAI 誌上でもたびたびご紹介しておりますが、三宮駅を南北に延びるフラワーロードの復興状況や被災地の被災状況などの情報を３次元 GIS（地図情報システム）により提供しました。

当システムはビジュアル性に優れ、部分的ながらも復興状況を一目で俯瞰できる特徴を有するため、震災の時に神戸に住んでいましたという方や、震災後に応援に駆けつけましたといった神戸とゆかりのある方を中心として、モニターに映し出される復興状況の様子等を熱心に見入っておられました。

「非常持ち出し品」の展示（部分）

関心を呼ぶ3次元GIS（震災対策技術展（長岡））


国際フロンティア産業メッセ

パキスタン・イスラム共和国地震災害調査報告

2005年10月8日、パキスタン・イスラム共和国（以下パキスタン）北部を震源とするM7.6の地震が発生しました。この地震により、パキスタン北部を中心として死者約75,000人、負傷者73,000人以上発生しているなど大きな被害が生じました。人と防災未来センターは、現地の状況を把握し、被災地が復旧・復興へと向かう過程における課題を整理するとともに、阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえ、現地の災害対応や復興に資する知見を提供することを目的として、10月22日から11月1日の期間、国際協力機構（JICA）のパキスタン国北部地震復旧・復興プロジェクト形成調査団の一員として近藤伸也専任研究員を派遣し、現地の被災状況と対応状況の調査を行いました。

この地震による被害の特徴は主に2つ挙げられます。第一に山間部の広範囲にわたって斜面崩壊が発生したことです。これにより写真のように幹線道路が寸断されたために孤立地域が広範囲にわたって発生しました。また山間部に散在する住宅も被害を受け、被災者への緊急物資の輸送、負傷者・避難者の搬送はヘリコプターを用いて行われました。これは2004年10月に発生した新潟県中越地震と類似しています。第二に耐震性が低い組積造構造物（レンガや石材を積み重ねて造られた構造物）そのものが倒壊していることです。これは2003年12月に発生したイラン南東部地震をはじめ、組積造建物を抱える諸国が共通して持つ地震防災の課題です。建物を失った被災者はテントの中で生活しています。

また学校・病院・政府・行政関係の建物の多くが倒壊等被害を受けました。比較的被害が軽微だった地域においても、学校の壁や柱に損傷を受けていました。地震発生時刻が授業時間帯だったこともあり、生徒はショックのあまり教科書等の荷物を置いて帰ってしまったとのことで、「生徒が来たがらない」、「先生も来たがらない」、「親が子供を送りたがらない」という状況でした。今後はカウンセラー派遣による被災者の心のケアなど、精神面からサポートする必要があります。
詳しくは、
http://www.dri.ne.jp./html/news/news05/images/r0016.pdf
をご覧下さい。

斜面崩壊による幹線道路の寸断
撮影：目黒公郎上級研究員

組積造建物の倒壊現場

キャンプの全景

学校教室内の壁の損傷

教室の状況

資料室からのお知らせ

阪神・淡路大震災から11年が経過しました。時の経過によって震災の記憶が風化されることがないようにするため、また震災の体験がない人にもこの出来事を伝えられる場を設けるため、資料室では「阪神・淡路大震災　わたしたちの復興プロジェクト　わたしたちの個人復興史」の活動に取り組んでいます。このプロジェクトではインターネット上の地図から、震災当時や復興していく風景の写真や文章を自由に閲覧することができます。資料は個人の方が所有している写真などをインターネットで登録されたものです。皆様がお持ちの資料が登録され「わたしたちの個人復興史」が充実していくことは、震災の出来事がより詳細に伝えることにつながります。まずは一度、この個人復興史をご覧になってみてください。

登録された内容は位置情報とともにデータベースとしてまとめ、インターネットを通じて不特定多数の人々に情報発信されます。
登録は資料室、あるいはご自宅のパソコンからでも可能です。
http://www.dri.ne.jp/ にアクセス！

人と防災未来センター資料室紹介　－資料を通じて震災を伝える－

阪神・淡路大震災や防災に関する資料を調べたい！そんな時は人と防災未来センター資料室をご利用ください。資料室ではセンター開館以前より収集されてきた紙・モノ・写真・映像音声などの一次資料および震災や防災に関する図書やビデオなどの二次資料を所蔵しております。また現在でも資料の受入も継続しておこなっています。

資料室は、無料でご入室およびご利用いただけます。

また来室前に、インターネットで資料検索していただくことも可能です。（センターホームページの『情報検索システム』から。）
資料の閲覧や寄贈に関してもどうぞお気軽にご相談ください。
電話による問い合わせは078－262－5058（資料室直通）まで。

＜開室情報＞
開室時間　9：30－17：30（夏期7月～9月は18：00まで）
閉室日　毎週月曜日（月曜が祝日の際は翌日休）
年末年始（12月29日から1月3日）

聴覚障害者向けにＬＥＤ字幕表示運用開始

人と防災未来センター防災未来館「大震災ホール」とひと未来館「こころのシアター」に、聴覚障害者のための発光ダイオード（ＬＥＤ）字幕表示システムを１月17日から運用開始することになり、16日に障害者ら約100人をお招きして、記念セレモニーを行いました。

テープカット風景

字幕表示システムとは、オペラ等外国からの舞台演劇の折りに、ＬＥＤ（発光ダイオード）の電光文字で翻訳字幕を出すシステムに類似した設備で、大震災ホールはスクリーンの右横、こころのシアターはスクリーン下に取り付けました。映像に合わせ、登場人物のせりふなどを一度に最大16文字表示することができます。このような常設の施設に導入されるのは国内では初めてです。

このシステムは、聴覚障害者の方々の自立による社会参加の促進に深い理解を寄せられているライオンズクラブ国際協会335複合地区及び特定非営利活動法人デフピープルから、人と防災未来センターに寄贈いただいたものです。

セレモニーでは、まず（財）阪神・淡路大震災記念協会貝原俊民理事長のごあいさつの後、ライオンズクラブ国際協会335－Ａ地区ガバナーの吉田英行氏、同335－Ｄ地区ガバナーの大辻利弘氏、特定非営利法人デフピープル副理事長の遠藤英二氏、兵庫県防災監東田雅俊氏、貝原理事長の５人でテープカットを行いました。

その後、両団体への感謝の印として、貝原理事長からライオンズクラブ国際協会335複合地区ガバナー協議会議長松田毅氏と特定非営利法人デフピープル副理事長の遠藤英二氏に対して感謝状を贈呈しました。

字幕表示システム

セレモニーの終了後に「葉っぱのフレディ」の試写会を開催しましたが、参加者からは映像のあらすじがよくわかったという声をいただきました。人と防災未来センターでは、少しでも多くの方に当センターに訪れていただけるように、今後もユニバーサル対応を進めていきます。

「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、積極的に利用して防災対策の大切さといのちの尊さを学習しようとする人々の親睦を深め、センターと連携しつつ、社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立されました。

どなたでも入会できますので、たくさんの方の入会をお待ちしています！

会員特典

1. センターへ無料で入館できます。
2. センターの最新情報が手に入ります。
3. 友の会のイベントに参加できます。

年会費

個人会員　3,000円
法人会員　一口50,000円
郵便振替：00940-2-160211
口 座 名：阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター友の会

MIRAI
［人と防災未来センターニュース］
Vol.16
発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ先

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2　〒651-0073
事務局／　TEL.(078)262-5060
観覧案内／　TEL.(078)262-5050
ホームページアドレス／　http://www.dri.ne.jp/

●開館時間　9:30～17:30（入館は16:30まで）
ただし、7～9月は9:30～18:00
（入館は17:00まで）
金・土曜日は19:00（入館は18:00まで）

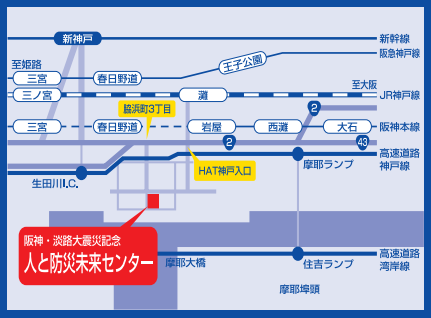
●休館日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
年末年始の12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク（4月28日～5月5日）期間中は無休

●入館料金（団体は20名以上）

区　分	防災未来館		ひと未来館		両館とも	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県内の小・中学生はココロンカードを提示すれば無料。
障害をお持ちの方及び兵庫県内在住で65歳以上の方は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかるものを提示ください。

交通マップ



■交通　鉄道／阪神「岩屋駅」から徒歩約10分・
JR「灘駅」南口から徒歩約12分。
阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。
バス／JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分。
神戸市営バス
三宮駅前から約1時間間隔で運転。
阪神電鉄バス
三宮駅前から約30分間隔で運転。
車　／阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分、
阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、
阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場　有料駐車場（普通車100台駐車可能）このほか近隣にも有料駐車場があります。

■バス待機所
予約制／無料
観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。

平成18年2月発行